日本地球化学会ニュース

No. 218　　September 2014

Contents

年会のお知らせ …… 2

2014年度日本地球化学会のお知らせ（3）

第9回日本地球化学会ショートコース

学会からのお知らせ …… 4

日本地球惑星科学連合2014年大会報告

Goldschmidt国際会議2014参加報告

年会のお知らせ

2014年度日本地球化学会のお知らせ（3）

主催：日本地球化学会

共催：国立大学法人富山大学，日本鉱物科学会，日本化学会，日本質量分析学会，日本地質学会，日本分析化学会

会期：平成26年9月16日（火）～18日（木）

会場：富山大学五福キャンパス（共通教育棟および黒田講堂，懇親会は市内会場グランドプラザ）

〒930-8555　富山県富山市五福3190

年会サイト：http://www.geochem.jp/conf/2014/

交通：

【市電】JR富山駅から「大学前行」約20分「大学前」下車すぐ

【バス】JR富山駅前から富山地鉄バス3番のりば「富山大学経由」で，20分「富山大学前」バス停下車すぐ

アクセス方法の詳細およびキャンパス内地図については，下記のサイトを参照下さい。

http://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html

内容：口頭発表およびポスター発表，夜間セッション，学会賞記念講演，総会，懇親会，閉会式。口頭発表は，A, B, C, D, E会場の5会場で行います。ポスター発表は，D棟2階のP会場，総会・学会賞記念講演は黒田講堂（G会場），夜間セッションはC会場，懇親会は市内のグランドプラザで行います。関連イベントとして，9月15日（月・祝）にショートコース，9月16日（火）に日中地球化学フォーラム，9月20日（土）に市民講演会を開催します。

講演セッション：特別セッション（1件），学会基盤セッション（17件）が行われます。また，学会企画セッションとして「地球化学を先導する研究計画検討会」を2日目に行います。このセッションは，評議員会が中心となって取り組んでいる将来構想の立案に対して広く会員の皆様からご意見を集める場として，年会期間中に行うものです。

学生発表賞：きわめて優れた口頭・ポスター発表を行った日本地球化学会学生会員に授与します。受賞者発表・表彰式は年会最終日の閉会式で行います。

プログラム：以下に掲載されております。

http://www.geochem.jp/conf/2014/program.html

講演要旨は9月上旬から，J-STAGE上で公開されます。

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/geochemproc

なお，要旨集の事前送付は行いません。学会当日に会場にて配布いたします。

参加登録費（講演要旨集1部含む）：

	一般会員	学生会員	会員外一般	会員外学生
事前参加登録	5,000円	2,000円	6,000円	3,000円
当日参加登録	6,000円	3,000円	7,000円	4,000円

*なお，会員は日本地球化学会及び共催学会の会員を指します。当日受付で入会申込された方も会員扱とします。学部生は無料（但し要旨集なし）ですが，必ず受付で参加登録をして，名札を受け取って下さい。

懇親会：9月17日（水）学会賞等受賞講演終了後，市中心部にあるグランドプラザにて。事前参加予約5,500円（学生3,000円），当日参加申し込み7,000円（学生4,000円）。

追加の講演要旨集：当日手渡し3,000円/部。後日郵送3,500円/部。

併設展示：関連機器メーカーその他による展示会をA22教室およびP会場にて開催します。多数の方のご来場をお待ちしております。

託児サービスについて：学会期間中に託児サービスの利用を希望される方は年会事務局に早めにご相談ください。

年会事務局：

〒930-8555　富山県富山市五福3190

理学部生物圏環境科学科内　2014年度日本地球化学年会事務局

E-mail: 2014@geochem.jp

●市民講演会のお知らせ

日本地球化学会は第61回年会の開催に合わせ，本市民講演会を企画いたします。今年度は，中高生や一般の方を対象に，研究者の成功体験や失敗体験を交えて，“地球化学者”の仕事とは何か，“地球化学”の研究の面白さや醍醐味を分かりやすく紹介したいと思います。また，様々な人材に関わり，育ててきた経営トップに「プロフェッショナル」とは何かについてお話しをして頂き，仕事を成し遂げる人の条件を探ります。

行事名：日本地球化学会市民講演会「地球化学者の仕事―宇宙と地球の謎を解くプロフェッショナル」（主催：日本地球化学会，後援：富山県，富山県教育委員会，富山市教育委員会，富山県ひとづくり財

団，富山経済同友会）

日時：平成26年9月20日（土）14：00～（開場13：30）

会場：サンシップとやま（富山市安住町5-21）

会場へのアクセス方法は下記のホームページをご参照ください。

http://www.wel.pref.toyama.jp/about/4_map.html

対象：中・高校生から一般の方まで

参加費：無料　定員200名　※当日，直接会場へお越しください。

プログラム

講演1　川幡穂高［日本地球化学会会長／東京大学大気海洋研究所教授］
「気候変動から日本人の起源を探る―気候と日本社会の変遷―」

講演2　八田真理子［ハワイ大学研究員］
「南極から見た海の横顔」

講演3　ウェンデル・ロジャー［東京大学宇宙線研究所　神岡宇宙素粒子研究施設助教授］
「スーパーカミオカンデで探る宇宙の履歴書」

講演4　増渕佳子［富山市科学博物館学芸員］
「立山地獄谷の硫黄溶岩形成の謎を解く」

講演5　「高校生による探求研究発表」
発表校：富山県立滑川高等学校，富山県立上市高等学校，富山県立石動高等学校

講演6　**特別講演**　中尾哲雄［富山経済同友会特別顧問］
「プロフェッショナルになるには」

詳細は年会ウェブページをご覧下さい。
http://www.geochem.jp/conf/2014/public.html

●第9回日本地球化学会ショートコース

地球化学は，試料を構成する元素，同位体，化学種の存在度，分布，移動，変化を空間的・時間的に調べ，それらを支配する法則や原理を見いだすことにより，地球や惑星を構成する物質の構造や循環を調べる学問である。分析・データ解析技術の進歩により，試料から得られる地球化学的知見の質と量は飛躍的に向上し，今では，鉱物学，岩石学，地質学，地球物理学など，他の地球科学分野の発展を支える重要な学問となっている。しかしその一方で，地球化学の応用性・実用性のみが注目され，地球化学の本質である現象の素過程を調べる研究が少なくなるとともに，時間をかけてじっくり調べ，問題点を徹底的に掘り下げて理解する機会も減少するという問題も顕在化している。こうした問題に対し，日本地球化学会では地球化学講座の発行を通じて地球化学の啓蒙を進めてきた。そして日本地球化学会では，次なる啓蒙活動として，大学生・大学院生を対象とした「ショートコース」を年会に合わせ開催することとした。本ショートコースでは，地球化学を研究する上で必須となる基礎知識の包括的修得と，最先端研究に触れることによる視点の拡大，という次の二つの目標を掲げ，将来の地球化学を担う若手研究者の育成を目指す。第9回目を迎えた今年は，地球化学と環境科学の接点，地球内部の地球化学といった学術研究の最前線を紹介する。また，査読者がどのような視点で論文の内容を評価するかを知ることで，若手研究者の学術執筆のノウハウを向上する講義も盛り込んだ。学生，若手研究者だけではなく，研究歴の長い研究者に対しても意義のあるショートコースとなった。

プログラム

9：30-9：40　【はじめに】
Take your place　平田岳史（京大院）

9：40-11：00　【講演1】
次世代ICP質量分析法を用いた環境放射能研究
大野　剛（学習院大学）

11：00-12：20　【講演2】
同位体分別を利用した地球環境科学の基礎と応用
角皆　潤（名古屋大学）

13：20-14：40　【講演3】
近未来予測向上のための過去の環境解析
横山祐典（東京大学）

14：40-16：00　【講演4】
海洋底下のマントル
森下知晃（金沢大学）

16：00-17：20　【講演5】
論文査読の仕方～査読者が注目する論文のポイント
高橋嘉夫（広島大学）

17：20-17：30　【Closing】

開催日時・場所

日時：2014年9月15日（月）午前9時30分～夜6時頃まで

会場：日本地球化学会2014年年会会場（富山大学）共通教育棟A棟A21号室（D会場）

学会からのお知らせ

●日本地球惑星科学連合2014年大会報告

地球惑星科学連合大会は，地球科学，惑星科学，宇宙科学に関連する日本最大の学術会議で，1990年から開催されています。今年の連合大会は，4月28日から5月2日までの5日間，神奈川県横浜市のパシフィコ横浜で開催されました。例年より1ヶ月早く1日短い5日間の開催でしたが，セッション数は193，全投稿件数は約4,000件と昨年よりセッション数で12，投稿件数で約100件増加し，全参加者も7,000人以上と昨年とほぼ同数での開催となりました。地球化学関連のセッションも複数開催され。活発な研究発表とディスカッションが行われました。また，今年は1990年に第1回が開催されてから25回目の記念大会となり記念式典が開催され，それに合わせてこれまで地球惑星科学分野に多大な貢献をされてきた43名の日本地球惑星科学連合フェローの表彰が行われました。

今年の連合大会では，新しく刊行された日本地球惑星連合のオープンアクセス電子ジャーナル“Progress in Earth and Planetary Science”に関するセッションや，東日本大震災から3年が経過したことや昨今ニュースになることが増えた豪雨等の極端な気象現象を見据え，「連合は環境・災害にどう向き合って行くのか」，「持続可能な地球へ向けた統合研究」という地球惑星科学分野が社会にどう貢献していけるのかを展望するセッションも広く人を集めるセッションとなっていました。

日本地球化学会の学協会ブースでは，評議員と広報委員の方々にお手伝いいただき，学会員の勧誘，ノベルティやパンフレットの配布，機関誌である地球化学やGeochemical Journalの配布，地球化学若手会や日本地球化学会2014年会，ショートコース等の研究集会の案内を行いました。また，学会員が著者となっている書籍の販売も行い，これらは最大29%引き割引価格や付録付きで販売されました。

日本地球惑星連合大会の投稿数，参加者数は毎年右肩上がりに増加しています。この事実は，この大会に対する日本地球惑星関連学会の会員の関心の高まりを表しています。来年は再び場所を幕張メッセに戻し，2015年5月24日（日）から5月28日（木）までの5日間での開催が決まっております。日本地球惑星連合大会は専門が異なる分野の研究者と交流や接点を作る絶好の機会でありますので，是非とも来年も多くの日本地球化学会会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。

下記に今回，日本地球化学会ブースで販売した会員書籍のリストを示します。

著　者：臼井　朗
出版社：オーム社
著書名：海底鉱物資源未利用レアメタルの探査と開発

著　者：川幡　穂高
出版社：東京大学出版会
著書名：地球表層環境の進化―先カンブリア時代から近未来まで

著　者：川幡　穂高
出版社：東京大学出版会
著書名：海洋地球環境学―生物地球化学循環から読む

著　者：小林　憲正
出版社：講談社サイエンティフィク
著書名：生命の起源―宇宙・地球における化学進化

著　者：小林　憲正，藪田　ひかる他（山岸　明彦編）
出版社：化学同人
著書名：アストロバイオロジー

著　者：益田　晴恵
出版社：京都大学学術出版会
著書名：都市の水資源と地下水の未来

（広報委員会　JpGU担当　平野直人，
広報担当幹事　原田尚美）

●Goldschmidt国際会議2014参加報告

2014年の第21回ゴールドシュミット国際会議は，6月8日から13日までの6日間，アメリカのカリフォルニア州サクラメントで開催されました。この会議はヨーロッパ地球化学連合（European Association of Geochemistry, EAG）と米国地球化学会（Geochemical Society, GS）が主催，日本地球化学会（GSJ）やその他の関連学会が共催する国際学会で，地球化学関連では参加者数が最大規模の学会です。開催地であるサクラメントは，西海岸に位置し，かつてゴールドラッシュに沸き，アメリカ経済発展の礎となった都市の1つです。学会は観光名所としても有名なオール

ド・サクラメント歴史地区から歩いて20分ほどのところにあるSacramento Convention Centerで開催されました。

今回のゴールドシュミット国際会議では，本会におけるベンチマークとなる地球化学や新しい技術開発・シミュレーション等のセッションやシンポジウムが数多く設けられていました。全体で26のテーマに2つから8つのセッションがぶら下がっており（合計約130のセッション），15の会場で並行してセッションが進むという大規模な学会でした。今年のゴールドシュミット国際会議では，特に学生や若い研究者を対象としたイベントやワークショップが重要視されていたように思います。

ゴールドシュミット国際会議の参加人数は毎年増加の一途をたどっていますが，今年は場所がサンフランシスコ（毎年AGUが開催される）に近いためか，昨年開催のイタリア・フィレンツェ大会に比して1,500名ほど参加人数が少ない会議となりました。ポスター会場は展示会場と共通でしたが，会場となったExhibition Hallが大変広かったため，見学者が多いポスターでもまったく窮屈さを感じませんでした。ただ，会場内の無線LANがやや遅かったのが気になりました。日本地球化学会のブースは会場入り口付近の分かりやすい場所にあり，横浜で開催されるGoldschmidt2016の宣伝に大変効果的でした。

日本地球化学会ではPR活動の一環として毎回の本会議でブース展示を行い，GJのCD-ROMや冊子体を無料で配布しております。今年もパンフレットに加え，地球化学会のロゴ入りボールペンやゴールドシュミット2016横浜のポスターの掲示や横浜の街を紹介するパンフレット等の配布を行いました。ブースにはGJや日本の研究機関や大学でのポスドクとして日本で研究をしたい若手研究者や，海外の研究機関に在籍する在外会員，日本に留学経験のある研究者が訪ねてきてくれました。毎回のことですが，今回も情報交換の場として，また待ち合わせ場所として多くの方々に利用していただきました。今年のGJ賞の受賞論文は，Amakawa, H.らの“Neodymium isotopic composition and concentration in the Southwest Pacific Ocean Geochemical Journal, Vol. 47（No. 4），pp. 409–422,（2013）でした（写真1参照）。筆頭著者の天川藤原早絵子さんに川幡会長ならびに坏本GJ編集委員長から賞が授与されました。心より受賞をお喜び申し上げます。

来年のゴールドシュミット会議は8月16日から21日までチェコ共和国のプラハで開催されます。2016年の横浜開催のゴールドシュミット会議も着々と準備が進んでおります。横浜での会議を盛り上げるためにも是非とも参加をご検討ください。日本地球化学会には鳥居基金という海外派遣の助成制度もあります。基金の詳細はhttp://www.geochem.jp/prize/torii.htmlにありますので，関心のある方はご参考になさって下さい。

（広報委員会　ゴールドシュミット担当
原田尚美，山下勝行）

写真1　GJ賞受賞者天川裕史さんの記念撮影（左から川幡穂高日本地球化学会会長，天川裕史さん）

ニュースへ記事やご意見をお寄せください

地球化学に関連した研究集会，書評，研究機関の紹介などの原稿をお待ちしております。編集の都合上，電子メールでの原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2014年12月頃を予定しています。ニュース原稿は11月下旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者（日本地球化学会広報幹事・ニュース担当）

原田尚美
〒237-0061　神奈川県横須賀市夏島町2-15
海洋研究開発機構（JAMSTEC）
地球環境変動領域
Tel: 046-867-9504; Fax: 046-867-9455
E-mail: news-hp@geochem.jp

薮田ひかる
〒560-0043　大阪府豊中市待兼山町1-1
大阪大学大学院理学研究科
宇宙地球科学専攻
Tel: 06-6850-5497; Fax: 06-6850-5480
E-mail: news-hp@geochem.jp